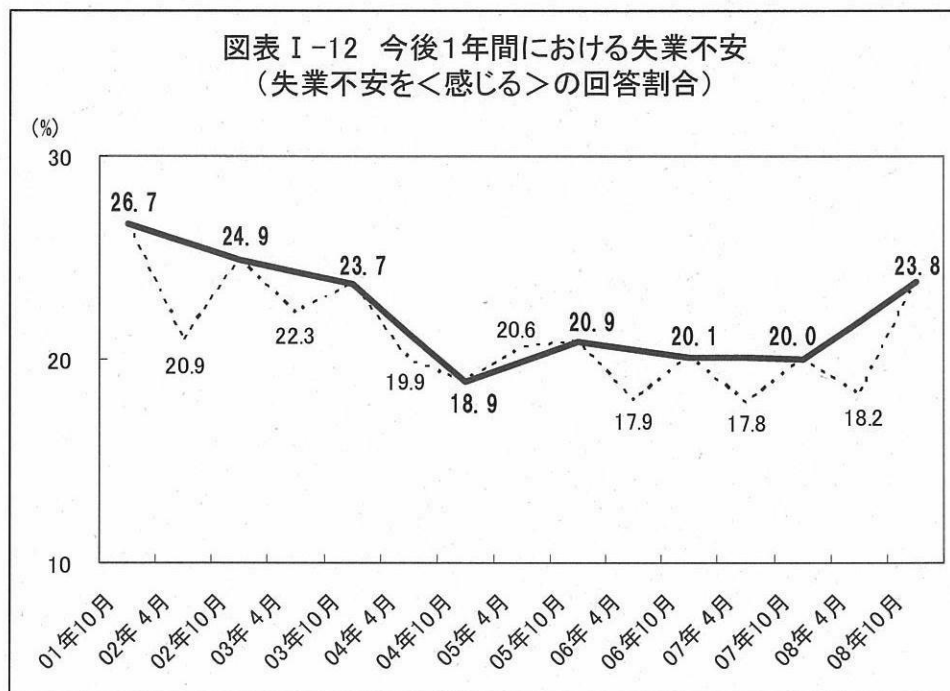


○ 失業不安 —失業不安を感じる者の割合は急増 非正社員、低所得層や今後賃金の減少を予想する層で高い値— (問8)

- ・ 今後1年くらいの中に失業する不安を 23.8%の者が感じており、前回調査(2008年4月)の 18.2%より急増(図表 I-14)。2001年時とほぼ同じ水準となっており、雇用情勢の先行きが懸念される。
- ・ 特に、非正社員(31.1%)、個人賃金年収が200万円未満である層(27.1%)、今後1年間に賃金収入が現状と比べて減ると予想している層(47.1%)などで、失業不安を感じる割合が高い(図表 I-15)。セーフティネットの弱い層で失業が多く発生するおそれ。

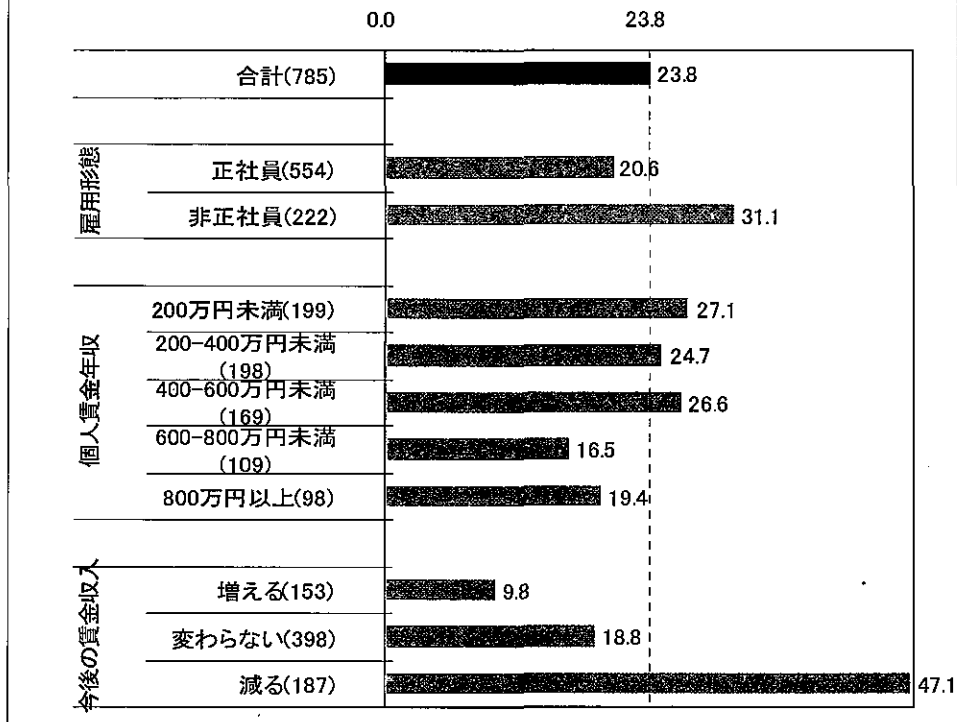


(注1) 失業不安を<感じる>=かなり感じる+やや感じる

(注2) 季節要因の影響を除外するため、各年の10月調査分のみを取り出した場合、実線のとおりとなる。

図表 I-13 失業不安(失業不安を
 <感じる>の回答割合 属性別)

(%)

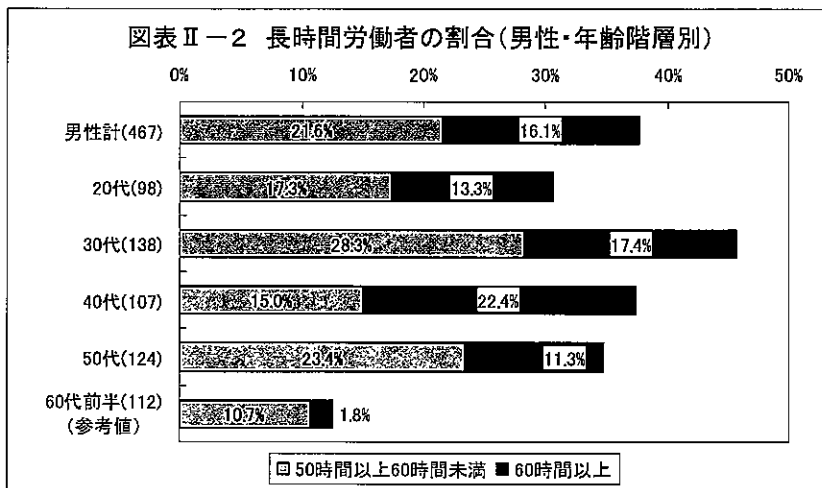
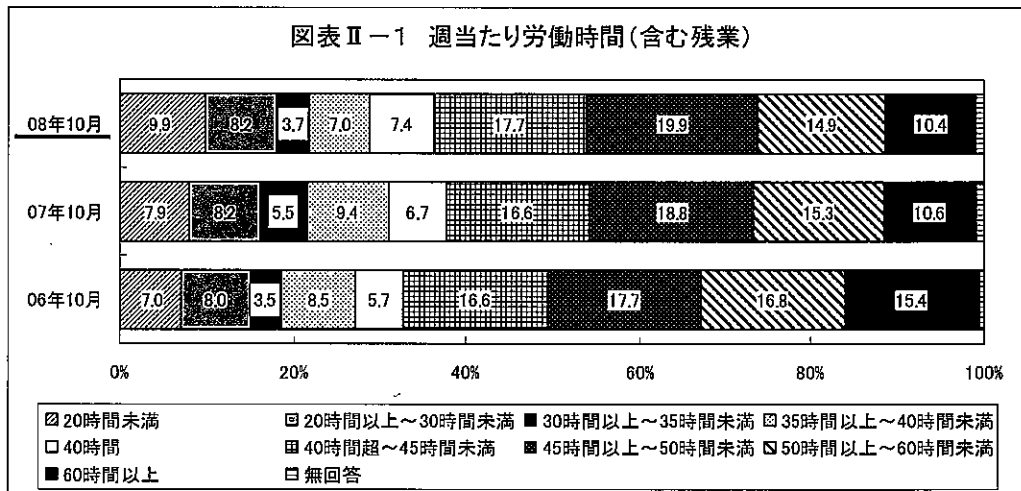


(注) () 内は各グループの人数(N)を表す。

II 労働時間・生活時間についての認識

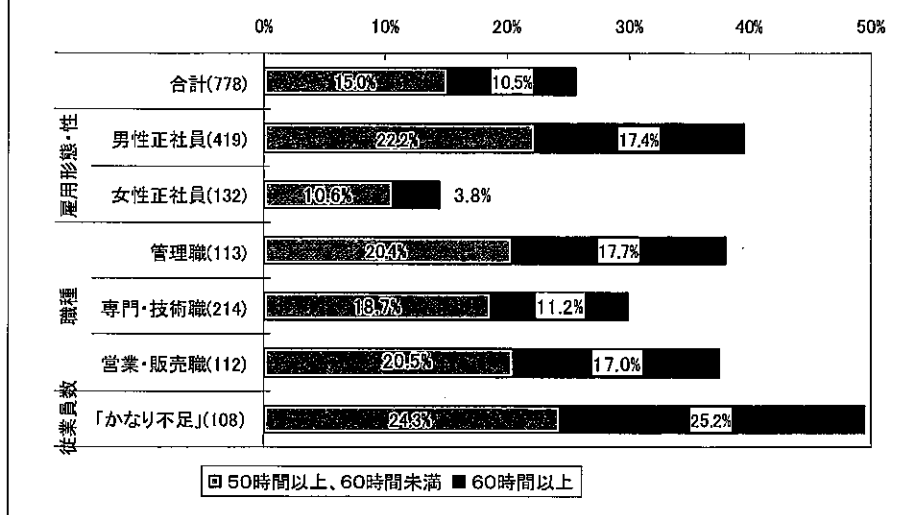
○ 週当たり労働時間の現状 一労働時間 50 時間以上は 4 人に 1 人— (F5)

- 平均的な1週間あたりの実労働時間(残業含む)は「50 時間以上 60 時間未満」が 14.9%、「60 時間以上」が 10.4%であった。4 人に 1 人が週 50 時間以上働いている(図表Ⅱ-1)。
- 長時間労働者の割合(週 50 時間以上働いている割合、週 60 時間以上働いている割合)をみると、30~40 代男性で多い。(図表Ⅱ-2)
- その他の属性では、男性正社員、「管理職」「専門・技術職」「営業・販売職」で長時間労働が多い。さらに、従業員数が「かなり不足」していると 2 人に 1 人が週 50 時間以上、4 人に 1 人が週 60 時間以上労働である。長時間労働の背後に人手不足、さらに言えば職場での要員管理の問題があると考えられる(図表Ⅱ-3)。



(注)「無回答」を除いて算出。

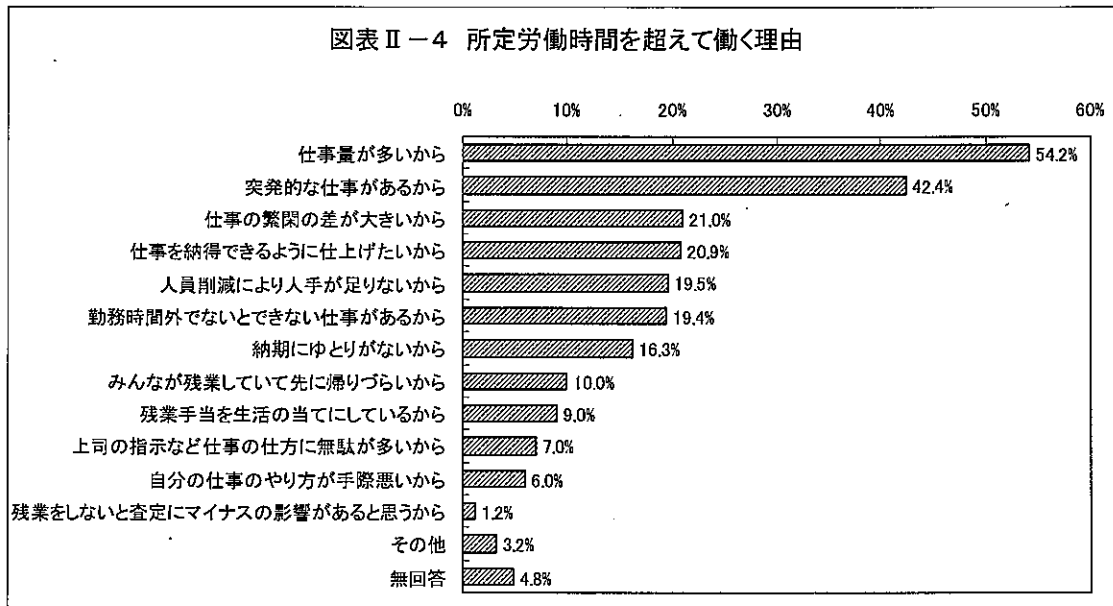
図表Ⅱ-3 長時間労働者の割合(雇用形態・性、職種、人手別)



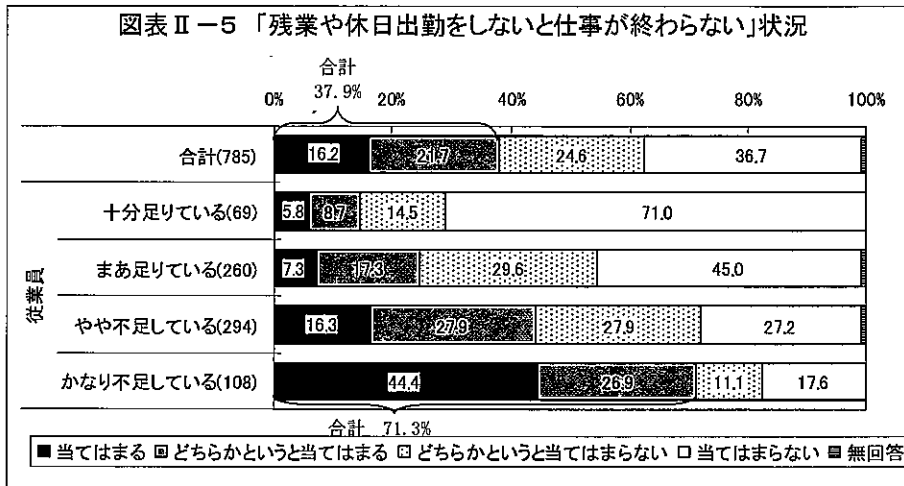
(注)「無回答」を除いて算出。

○ 時間外労働・休日労働の理由 —仕事量の多さ、突発的な仕事が背景に— (問 33、問 21(2)⑦)

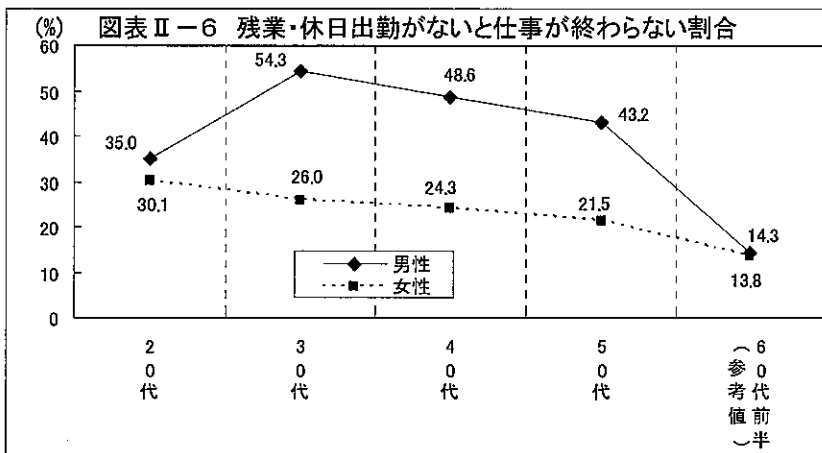
- ・ 所定労働時間を超えて働く(時間外労働・休日労働)理由で、もっとも多かったのは「仕事量が多いから」(54.2%)で、以下「突発的な仕事があるから」(42.4%)、「仕事の繁閑の差が大きいから」(21.0%)、「仕事を納得できるように仕上げたいから」(20.9%)であった。(図表Ⅱ-4)。
- ・ 仕事の特色として「残業や休日出勤をしないと仕事が終わらない」という状況が「当てはまる」割合は16.2%、「どちらかという当てはまる」割合は21.7%であった(合計37.9%)。また、職場の従業員数が不足しているほど、「残業や休日出勤をしないと仕事が終わらない」が当てはまる(図表Ⅱ-5)。
- ・ 性別・年齢別に「残業や休日出勤をしないと仕事が終わらない」割合(「当てはまる」と「どちらかという当てはまる」の合計)が高いのは30代男性(54.3%)で、以下40代男性(48.6%)、50代男性(43.2%)と続く。多くの場合、職場の人手不足を背景に30代以上の男性に残業・休日出勤せざるを得ない仕事量のしかかっている。一方女性は20代がもっとも高い(30.1%)が、20代男性(35.0%)より4.9%低い。(図表Ⅱ-6)



(注)「残業はしていない」人を除いて算出(N=681)。 ※複数回答(3つまで)



(注) 数値は「残業や休日出勤をしないと仕事が終わらない」状況が「当てはまる」および「どちらかという当てはまる」割合の合計である。

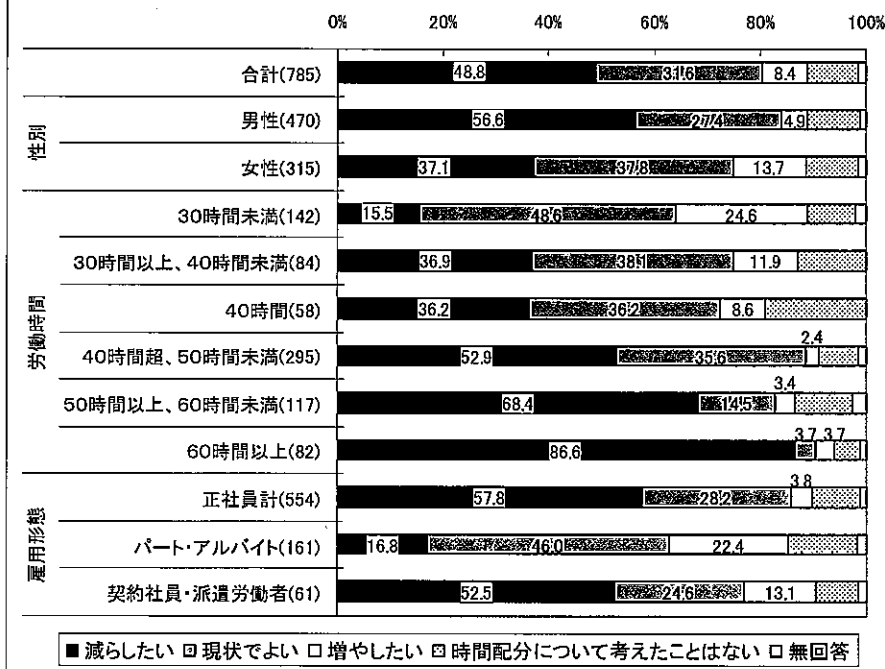


(注) 数値は「残業や休日出勤をしないと仕事が終わらない」状況が「当てはまる」および「どちらかという当てはまる」割合の合計である。

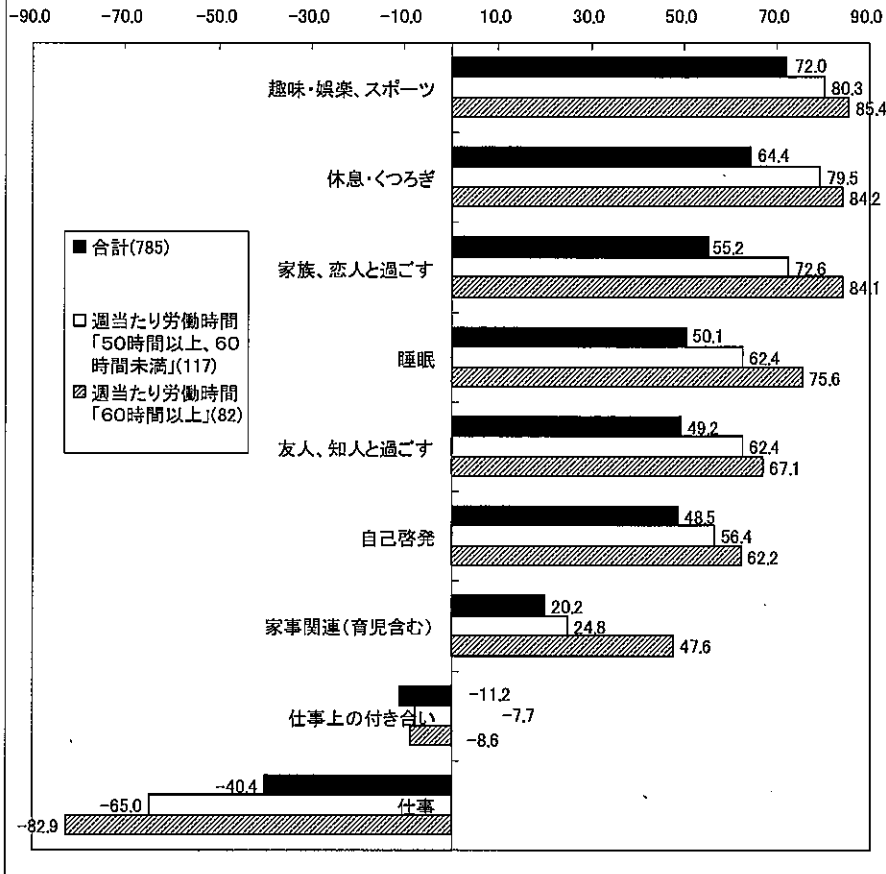
○ 今後の仕事と生活時間の希望 —仕事時間の減少と余暇活動時間の増加を希望—
(問 24、25)

- ・ 仕事をしている時間を「減らしたい」と回答した割合は 48.8%にのぼる一方、「増やしたい」は 8.4%にとどまる。女性よりも男性のほうが、また週当たり労働時間が長いほうが「減らしたい」の割合が高い。ただしパート・アルバイトでは「減らしたい」(16.8%)よりも「増やしたい」(22.4%)の割合が高い。(図表Ⅱ-7)
- ・ 今後の時間の希望について、「増やしたい」と「減らしたい」の差をみると、仕事関連の時間を減らし、余暇活動の時間を増やしたいという傾向が表れている。この傾向は、長時間労働者で顕著である。(図表Ⅱ-8)
- ・ 長時間労働者では「睡眠」の増加希望が高い。生存のために必要な「睡眠時間」を削って長時間労働を行わざるを得ない状況がうかがえる。(図表Ⅱ-9)

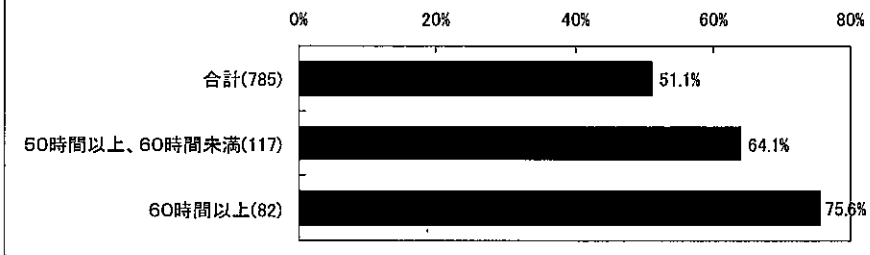
図表Ⅱ-7 「仕事をしている時間」の増減希望



図表Ⅱ-8 今後の時間の希望(「増やしたい」-「減らしたい」)



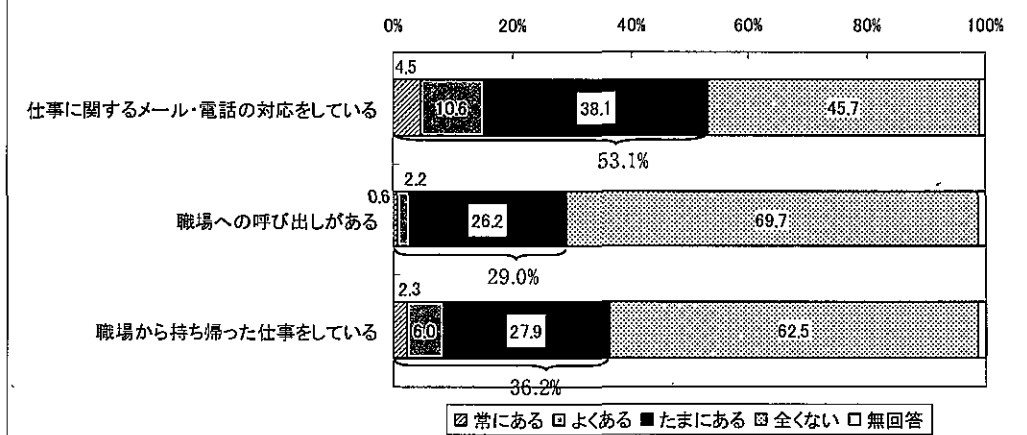
図表Ⅱ-9 「睡眠」増加希望割合(週あたり労働時間別)

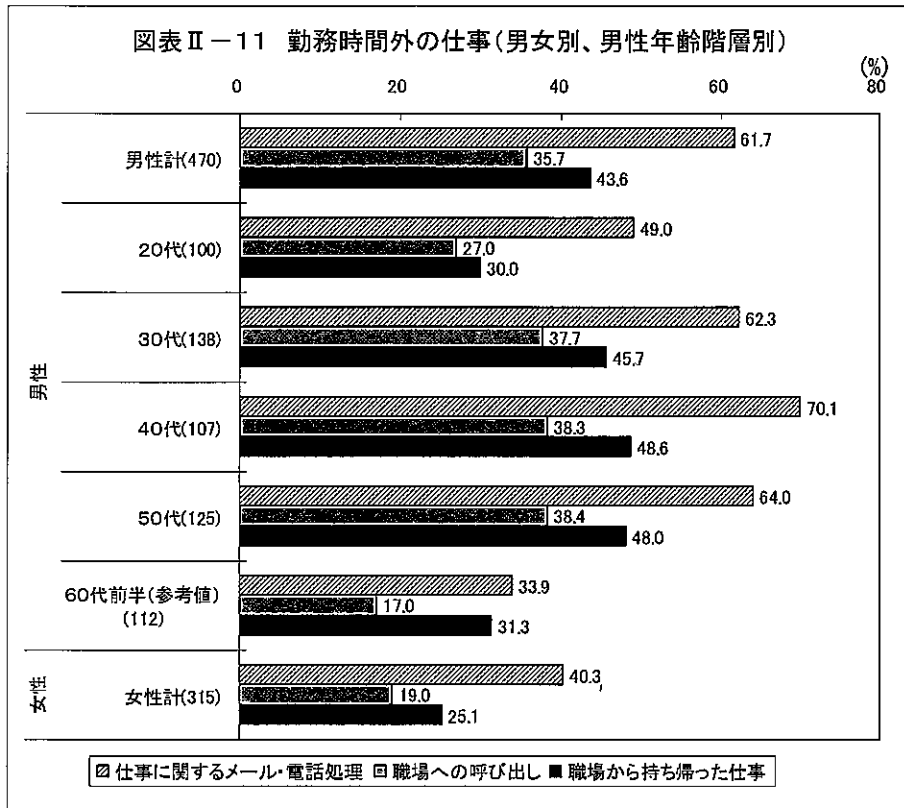


○ 勤務時間以外の過ごし方 —30～50代男性は勤務時間外にも仕事が多い— (問36)

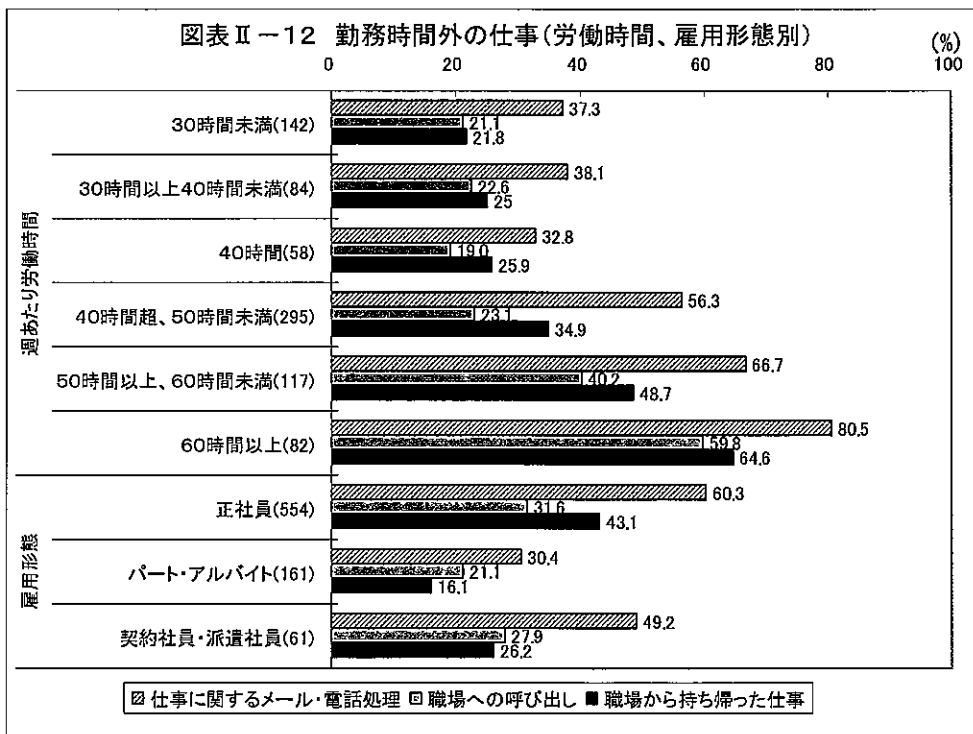
- ・ 休日や勤務時間でない時間帯(出勤前・出勤後など)に「仕事に関するメール・電話の対応をしている」割合は 53.1%、「職場への呼び出しがある」割合は 29.0%、「職場から持ち帰った仕事をしている」割合は 36.2%であった。(図表Ⅱ-10)
- ・ 30～50代男性では「仕事に関するメール・電話の対応をしている」割合は 60～70%程度、「職場への呼び出しがある」割合は 45～49%程度、「職場から持ち帰った仕事をしている」割合は 38%程度であった。(図表Ⅱ-11)
- ・ また、週あたり労働時間が「60時間以上」の層では「仕事に関するメール・電話の対応をしている」割合は 80.5%、「職場への呼び出しがある」割合は 59.8%、「職場から持ち帰った仕事をしている」割合は 64.6%と高い水準にあった。30～50代男性、長時間労働者は勤務時間以外でも仕事から完全にオフになっていない状況が表れている。(図表Ⅱ-12)

図表Ⅱ-10 勤務時間に行っている仕事に関連した行為





(注) 表中の割合は、「常にある」「よくある」「たまにある」の合計値。



(注) 表中の割合は、「常にある」「よくある」「たまにある」の合計値。